

平成19年2月2日

各位

会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 田島 秀二
 (コード番号 7707 大証ヘラクレス)
 問合せ先 取締役業務本部長 秋本 淳
 (TEL 047-303-4800 URL <http://www.pss.co.jp/>)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成18年8月11日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 連結業績予想

中間期連結業績予想の修正(平成18年7月1日~平成18年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	1,750	40	60
今回修正予想(B)	1,694	133	164
増減額(B-A)	55	93	104
増減率	3.1%	-	-
(参考)前中間期実績 平成17年12月期	1,643	42	301

通期連結業績予想の修正(平成18年7月1日~平成19年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想	3,900	30~60	0~30
今回修正予想(B)	3,800	100	150
増減額(B-A)	100	130~160	150~180
増減率	2.5%	-	-
(参考)前期実績 平成18年6月期	3,636	18	250

2. 単体業績予想

中間期単体業績予想の修正（平成 18 年 7 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	1,470	60	60
今回修正予想（B）	1,343	154	352
増減額（B - A）	127	94	292
増減率	8.6%	-	-
（参考）前中間期実績 平成 17 年 12 月期	1,372	45	280

通期単体業績予想の修正（平成 18 年 7 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想	3,280	10～40	10～40
今回修正予想（B）	3,100	150	350
増減額（B - A）	180	160～190	360～390
増減率	5.4%	-	-
（参考）前期実績 平成 18 年 6 月期	3,060	81	192

3. 連結業績予想の修正理由

中間期連結業績予想の修正理由

売上高に関しましては、主要 OEM 先の一部向け販売がやや弱含みに推移したものの、ほぼ予想に近い 1,694 百万円を確保いたしました。しかしながら、米国での今後の事業拡大に備えた体制整備（新規 OEM への対応等）、及び遺伝子による体質診断、タンパク質解析、ウィルス感染症診断などを目的とした測定系技術開発（抽出・精製との一貫自動化をめざす）などに注力したことから、研究開発費、人件費等が拡大し販売管理費の増加を招きました。この結果、中間期の経常損失 133 百万円、純損失 164 百万円へと期初予想から、それぞれ修正せざるを得ない状況となりました。

通期連結業績予想の修正理由

例年、海外 OEM 先への販売は、上期に比べ、下期に増加する傾向があり、当期についても同様の推移が期待されます。しかしながら、主要 OEM 先の一部向け販売が、期初予想に比べ弱含みに推移している状況に変わりがないため、通期の売上高予想に関して若干減額いたしました。また、上期に拡大した販売管理費に関しては、下期も横ばい程度の推移が予想されることから、下期における事業活動の中で、中間期の損失を吸収することは難しく、通期の収益予想としては、経常損失 100 百万円、純損失 150 百万円へとそれぞれ修正いたします。

米国の新規 OEM 先 2 社との取引は、当期にスタートし来期には本格的な拡大が期待されます。また、現在注力中の研究開発活動から生み出される新製品の市場投入も見込まれ、来期の販売拡大は十分に期待できる状況にあります。当期に関しましては、先行投資負担としてやむをえない状況であり、なにとぞご理解いただきたいと存じます。

4．単体業績予想の修正理由

連結業績予想と同様の修正理由に加え、米国での事業拡大に備えて、人件費等の販売管理費拡大により損失を計上した米国子会社、PSS Bio Instruments, Inc. の株式について、減損処理を行いました。これにより評価損が発生し、200 百万円の特別損失の計上となりました。この結果、通期での経常利益、純利益予想においても、期初予想を修正せざるを得なくなりました。

以上